

# カナダ社員との チームワーク作り!



**立石 文雄**  
オムロン 取締役副会長

3年半の米国シカゴ駐在を終えてそのまま、今から22年前の1987年12月、私は妻と長女、長男の二人の子供を帯同して、カナダ・トロントの弊社制御機器事業のカナダ社（本社・スカボロー市）の代表に就任した。初めて一国の主として事業を任されたのがカナダであり、それだけに思い出深い地でもある。

トロントは、欧州的、米国的、そこに中国的文化も融合した素晴らしい町である。カナダは正に異文化の<sup>るっぽ</sup>坩堝であり、モザイク国家である。今でさえ語られ始めた言葉“ダイバーシティ”を20年以上も前から既に実行している国なのである。



① 出発時。旧本社前にて。



② 「オムロン マラソン・ラリー」完走時（1988年）。左端が著者。まだ元気そう?

わが社においても、20カ国の異なる国籍を持っていた第一世代、第二世代移民の人々の集まりで成り立っている会社であった。如何にわが社の社員をチームワーク良く、一致団結させられるかが企業の成長にとって欠かせなかった。

その一環として実施していた一つが「マラソン・ラリー」であった。わが社は、以前から年に一度5月10日という創業記念日の午後に「オムロン・デー」として全世界一斉に多種多様なボランティア活動を実施している。当カナダ社においても1988年の創業記念日からは癌患者支援の為に「オムロン マラソン・ラリー」を開催スタートした。本社社員30数名が参加して本社前からスタート。10kmを走破して戻ってくるというもの。10kmを完走した社員に対して、会社側からも社員一人あたり幾らかの金額を拠出するマッチング方式を採用。社員自身の寄付金とこのマッチング金額の合計額をカナダ癌協会に毎年寄贈していた。このように地味な活動ではあったが、社員が一つの目的に向かって協力し合うと大きな力となる素晴らしさを体験すると同時に、私にとってもフレッシュな気持ちにさせてくれるその日であった。